

河本英夫教授 略歴・業績一覧

学歴

- 1972 鳥取県立倉吉東高卒業
- 1972 東京大学教養学部入学
- 1977 東京大学教養学部卒業
- 1977 東京大学大学院理学系研究科・科学史科学基礎論専門課程入学
- 1979 同上修士課程修了
- 1979 同上博士課程進学
- 1982 同上単位取得のうえ退学
- 博士（学術）〔東京大学〕 2008年

職歴および研究歴

- 1989 長崎大学教養部助教授
- 1991 東洋大学文学部助教授
- 1996 東洋大学文学部教授
- 1995 ドイツ・マールブルク大学にて科学哲学の研究（1996/3/31まで）

学内活動

学科・分野主任（一九九六、一九九七、二〇〇一、二〇〇六）

大学院文学研究科哲学専攻専攻長（二〇一三—二〇二三）

東洋大学「エコ・フィロソフィー」学際研究イニシアティブ（二〇〇五—二〇二二）

東洋大学国際哲学研究センター（二〇一—二〇二二）

一般活動

NPO神経現象学リハビリテーション開発機構代表理事（二〇一〇—現在）

日本病跡学会理事（二〇〇九—現在）

著書

『自然の解釈学—ゲーテ自然学再考』（海鳴社、一九八四／十二）

『諸科学の解体—科学論の可能性』（三峰書房、一九八七／九）

『オートポイエーシス—第三世代システム』（青土社、一九九五／六）

『オートポイエーシス2001』（新曜社、二〇〇〇／一）

『オートポイエーシスの拡張』（青土社、二〇〇〇／三）

『システムの思想』（東京書籍、二〇〇二／七、対談集）

『メタモルフオーゼ—オートポイエーシスの核心』（青土社、二〇〇二／九）

- 『システム現象学—オートポイエーシスの第四領域』(新曜社、二〇〇六/六)
- 『哲学、脳を揺さぶる—オートポイエーシスの練習問題』(日経BP社、二〇〇七/二)
- 『飽きる力』(NHK出版、二〇一〇/十)
- 『臨床するオートポイエーシス』(青土社、二〇一〇/十二)
- 『損傷したシステムはいかに創発・再生するか』(新曜社、二〇一四/三)
- 『わたし』の哲学』(角川書店、二〇一四/五)
- 『エキサイティング・エコ』(私家版、文京堂、二〇一四/十二)
- 『マインドモンスター』(私家版、文京堂、二〇一五/四)
- 『不連続点I』(私家版、文京堂、二〇一五/七)
- 『第三系統論』(郭連友訳、二〇一六、十二、中央編集出版、北京)
- 『ドラスティック・エコ』(二〇一七、一、私家版)
- 『経験のリセットする』(二〇一七、九、青土社)
- 『哲学の練習問題』(講談社学術文庫、二〇一八、四)
- 『システムの制作プロセスI』(私家版、二〇一八、五)
- 『哲学の困惑』(私家版、二〇一九、十二)
- 『哲学という希望』(『国際哲学研究』別冊、国際哲学センター、二〇二二、二)
- 『持続可能性と創造性』(『エコ・フィロソフィー』別冊、国際哲学センター、二〇二二、二)
- 『ダ・ヴィンチ・システム—来るべき自然知能のメチエ』(学芸みらい社、二〇二二、二)

- 『アラカワという希望』（『システム文化生態学』〇号 別冊、二〇二三、二二）
- 『情報科学技術社会』（『システム文化生態学』〇号 別冊二〇二三、二二）
- 『強度の哲学——変化率の文化生態学——この世界を別の仕方で生きるために』（『システム文化生態学』〇号 別冊、二〇二三、二二）
- 『最終講義資料集』（論集刊行会）二〇二四、二一
- 『システム文化生態学』（論集刊行会）二〇二四、二一
- 『システムの練習問題』（論集刊行会）二〇二四、一〇
- 『デカップリング』（学芸みらい社、二〇二四、一〇）

編著・共編著

- 『真理への反逆——知識と行為の哲学』（富士書店、一九九四／二、共編著）
- 『精神医学』（青土社、一九九八／十二、共著）
- 『感覚——世界の境界線』（白菁社、一九九九・十一、共編著）
- 『哲学の木』（講談社、二〇〇二／二、共編著）
- 『媒体性の現象学』（青土社、二〇〇二／七、共編著）
- 『他者の現象学Ⅲ』（北斗出版、二〇〇四／一、共編著）
- 『哲学をつくる——東洋大学哲学講座3』（知泉書館、二〇〇五／五、編著）
- 『自己意識の現象学』（世界思想社、二〇〇六／五、共編著）

- 『エコロジーをデザインする——エコ・フィロソフィーの挑戦』（春秋社、二〇一三／三、共編著）
- 『エコ・ファンタジー』（春風社、二〇一五、九、共編著）
- 『現象学のパススペクティヴ』（二〇一七、三、晃洋書房、共編著）
- 『哲学のメタモルフォーゼ』（共編著、晃洋書房、二〇一八、三）
- 『Human 有機体—人間—機械の未来』（共編著、学芸みらい社、二〇一九、三）
- 『見えない世界を可視化する哲学地図』（共編著、学芸みらい社、二〇二一、三）
- 『現象学 未来からの光芒—新田義弘教授追悼論文集』（編著、学芸みらい社、二〇二一、三）
- 『知の創発と危機のデッサン』（編著）（学芸みらい社、二〇二二、二）

翻訳

- ダント『物語としての歴史』（国文社、一九八九／二）
- マトウラーナ、ヴァレラ『オートポイエーシス』（国文社、一九九一／十）
- ヤニツヒ『制作行為と認識の限界』（共訳、国文社、二〇〇四／五）
- 荒川修作・マドリンギンズ『建築する身体』（春秋社、二〇〇四／九）
- 荒川修作・マドリンギンズ『死ぬのは法律違反です』（共訳、春秋社、二〇〇七／八）

DVD映像作品（共同制作）「作・プロデュース」

- 「ホモ・エクササイズ—生き抜くことへの讃歌」（二〇〇八）

- 「メメント・イマジカ―身体記憶へ」(二〇〇九)
- 「デア・インデイヴィジュアル―魂の目覚めに」(二〇〇九)
- 「テンダー・エマージェンス―来たるべき自己へ」(二〇一〇)
- 「モア・デイヴェロップメント―認知の彼方へ」(二〇一一)
- 「セルフ・セットアップ・アゲイン―記憶への旅たちの日々へ」(二〇一四)
- 「イノセント・メモリ―身体記憶の彼方へ」(二〇一五)

論文(単著・論集の分担執筆を含む)

- * 「19世紀生物学の自然観の研究」『科学史研究』一九八一、一二二
- 「19世紀生物学の流れ」(『20世紀自然科学史』第六卷、三省堂、一九八二、四)
- * 「第二科学革命の地平(Ⅰ) 目的論的契機」『生物学史研究』一九八二、一〇『四五―五二』
- 「ポストパラダイム科学論」(『パラダイム再考』ミネルヴァ書房、一九八四、一〇)
- * 「客観性の政治学としての科学」(『現代思想』一九八六、八) 九六一―一〇五
- * 「物語と時間化の隠喩」(『現代思想』一九八七、五) 八〇―八九
- 「社会的行為としての科学」(『科学史』弘文堂所収、一九八七、一〇) 一六四―二〇六
- * 「未規定的な直接性としての自然」(『現代思想』一九八八、二) 一〇六一―一七
- * 「進化と人種」(『現代思想』一九八八、二二) 一一〇―一二二
- 「近代生理学の分節と制度形成」(『講座科学史』第一卷倍風館所収、一九八九、一一) 三三三―三四九

「生命概念の歴史的展開」(『長崎からのちを考える』長崎大学、一九九〇、六)

「Force and Causality」(『長崎大学教養部紀要』長崎大学、一九九〇、七)

* 「ゲーテ色彩論と近代科学」(『ゲーテ年鑑』第32号、一九九〇、九) 一一一五

「円環 禁止 権力」(『哲学の冒険』第六卷岩波書店所収、一九九〇、一〇) 八一一二五

「シェリングの自然哲学」(『講座ドイツ観念論』第四卷、一九九〇、一一) 八一一二二五

「力とエネルギー」(『数理科学』サイエンス社、一九九二、一)

* 「リビドーのオートポイエーシス」(『イマゴ』一九九二、三) 一二六一三四

「生命」(『科学とは何か——12のフォーカス』北樹出版、一九九二、五)

* 「第三世代システム—オートポイエーシス1」(『現代思想』一九九二、八) 一三四—一五六

* 「第三世代システム—オートポイエーシス2」(『現代思想』一九九二、一一) 一三九—一五六

* 「第三世代システム—オートポイエーシス3」(『現代思想』一九九三、三、四) 一五六—一六八、二七六—二九四

* 「第三世代システム—オートポイエーシス4」(『現代思想』一九九三、九) 三八—六三

* 「精神のオートポイエーシス」(『イマゴ』一九九四、二)

* 「眼には内部も外部もない」(『イマゴ』一九九四、二)

「オートポイエーシス・システム」(『講座現代哲学』第12卷岩波書店所収、一九九四、四)

* 「動きとかたち」(『モルフォギア』一九九四、一一)

「科学と社会—システム理論と科学」(『システムと共同性』昭和堂所収、一九九四、一一)

* 「疾走しつづけるもの」(『現代思想』一九九五、一〇)

- 「環境概念とシステム哲学」〔講座環境科学〕第14巻朝倉書店所収、一九九六、四)
- 「オートポイエーシスにもとづく研究評価論」(科学技術政策研究所 講演録、一九九六/十二)
- * 「オートポイエーシスと認知の機構」(『日本ファジー学会誌』Vol.9, No.5, 一九九七、十) 六二九―六三六
- * 「光と色―ゲーテとウィットゲンシュタイン」(『現代思想』一九九八、一)
- * 「科学的理性のアンチノミー」(『現代思想』一九九八、十一)
- 「制作の回路」〔講座科学技術と人間〕岩波書店所収)
- * 「メタモルフォーゼ1」(『現代思想』一九九九、四) 一五四―一七三
- 「オートポイエーシス」〔講座転換期のフィロソフィー〕ミネルヴァ書房、一九九九、四)
- * 「狂気の傍らを通り過ぎること」(『現代思想』一九九九、五) 一八九―一九九
- 「オートポイエーシスと組織の変貌」(『NIRA』一九九九、五)
- * 「メタモルフォーゼ2」(『現代思想』一九九九、九) 一七八―一八三
- 「感覚の精神病理」(『感覚』白菁社所収、一九九九、十一) 二〇一―二二九
- * 「ゲーテ色彩論はどのような科学か」(『思想』一九九九、十二) 三五―四八
- * 「ヘーゲル自然哲学とオートポイエーシス」(『ヘーゲル哲学研究』一九九九、十二)
- * 「オートポイエーシスの論理」(『理想』二〇〇〇、一) 一―二二〇
- * 「メタモルフォーゼ3」(『現代思想』二〇〇〇、四) 二四六―二六〇
- 「庄子的行為論与自造」(『哲学的時代課題』二〇〇〇、十二 中国語論文) 二四三―二五二
- * 「メタモルフォーゼ4」(『現代思想』二〇〇〇) 二二―二四三

- * 「オートポイエーシスと二重作動」(『現代思想』二〇〇一) 一四二―一五三
- 「科学におけるパラダイム転換」(『20世紀の定義(5)』岩波書店、二〇〇二) 二六七―二八九
- 「疾病と因果性」(『白山哲学』第三五号、二〇〇二) 六七―八九
- * 「システムと環境」(『環境情報科学』二〇〇二) 二二―二六
- 「光について」(『ユリイカ』二〇〇二) 二〇七―二一五
- 「宿命反転前夜」(『SAP』二〇〇一、六) 三二―四一
- 「陽気なヴァレラ」(『現代思想』二〇〇一、七)
- * 「メタモルフォーゼ5」(『現代思想』二〇〇一、十) 二〇六―二二三
- * 「システムと現象学」(『現代思想』二〇〇一、十二) 二六〇―二七二
- 「存在の裂け目」(『科学・環境・生命を読む』二〇〇二、三) 四六―五九
- * 「メタモルフォーゼ6」(『現代思想』二〇〇二、四) 一九〇―二〇九
- 「システムと科学の哲学」(『哲学を生きる』知泉書館所収、二〇〇二、四) 八―二二〇
- 「速度と感覚」(『ユリイカ』二〇〇二、五) 一四七―一六一
- 「極微に触れる」(『Intercommunication』No.41、二〇〇二、六) 一四七―一六一
- 「口腔感覚の可能性」(『談』二〇〇二、十一) 一一―三二
- 「二重性の変奏」(『ユリイカ』二〇〇二、十二) 二一八―二二六
- * 「遂行的記憶」(『哲学雑誌』本郷哲学会機関紙二〇〇三、九) 一一〇―一三六
- 「物性の自己組織化」(『Webマガジンen』二〇〇四、一) 一―八

* 「オートポイエーシス系としての脳」(『生体の科学』二〇〇四、二) 七一―七六

「活動の哲学」(『白山哲学』第三八号、二〇〇四、三) 一八九―二一五

* The Mystery of Nagi's Ryoanji : Arakawa and Gins and Autopoiesis. In : *Interfaces Université Paris 7-Denis Diderot*, 21/22, 2004, 5, 85-102.

「生命の幾何学から建築的身体へ」(『建築する身体』春秋社所収、二〇〇四、九) 一五〇―一七〇

「身体 システム」(『白山哲学』第三九号、二〇〇五、三) 二七―六一

「技術の人間学」(『哲学をつくる』知泉書館所収、二〇〇五、五) 一四九―一六五

* 「遂行的イメージ」(『現代思想』二〇〇五、七) 六四―七八

* 「自己組織化と進化」(『現代思想』二〇〇六、二) 七五―八七

「人間再生プログラム」(『白山哲学』第四〇号、二〇〇六、三) 一五―七三

「情動・感情のシステム」(『白山哲学』第四〇号、二〇〇六、三) 七五―一二五

* Neue Formulierung der Autopoiese. In : *Leben als Phänomen*. Koenigshausen & Neumann, 2006, 5, 190-198.

「注意と像思惟」(『寅彦と冬彦』岩波書店所収、二〇〇六、六) 一七五―二〇〇

* 「身体論の課題」(『メルロ＝ポンティ研究』第十号、二〇〇六、七) 一―七

* 「発達の現象学」(『認知運動療法研究』No.6、二〇〇七、三) 三三―四九

「生命の自己制作」(『生命と自己』慶応義塾大学出版会、二〇〇七、三) 四五―六二

「デッサンの運動学」(『ユリイカ』青土社、二〇〇七、三) 八八―九六。

「システム・デザイン——探求プログラムの設定」(『エコ・フィロソフィー研究』第一号、二〇〇七、三) 一五―三一

* 「発達のリセット」(『現代思想』二〇〇七、五) 五六―六八

* 「精神問題学」(『現代思想』二〇〇七、七) 一一八―一二八

「総力戦Ⅱ アラカワ+ギンズのNのその向こう」(『死ぬのは法律違反です』春秋社所収、二〇〇七、八) 三五七―三八六

「病と経験の可能性」(『SITE ZERO』[1] 二〇〇七、九) 四二―五四

* 「言語システム」(『思想』二〇〇七、一一) 一七九―一九三

「オートポイエーシスの展開」(『現代に挑む哲学』学文社、二〇〇七、十一) 一九六―二〇七

「認知行為システム」(『白山哲学』第四二号、二〇〇八、三) 一―四六

* 「身体―空間の現れ」(『フッサール研究』第六号、二〇〇八、三) 一八四―一九七

「ホモ・エクササイズ」(『エコ・フィロソフィー研究』第二号、二〇〇八、三) 一五七―一六四。[DVD作品台本]

* 「触覚性マルチテュード」(『現代思想』二〇〇八、五) 一一二―一二七

「システムと認知——リハビリ経験の拡張」(『La plasticita della mente』二〇〇八、七) pp.111―110

* 「生命の科学と治療的介入」(『日本カイロプラクティック徒手医学会誌Journal』二〇〇八、七)

Vol.9, pp.7―111

* 「行為としての意識」(『哲学論集』第三七号、上智大学哲学科、二〇〇八、九) 一―一八

「認知行為システム」(『哲学講座第4巻 知識・情報の哲学』、岩波書店、二〇〇八、十) 一一二―一四〇

「自己組織化と進化——理論内部の隙間をどう考えるか」『ダイナミックスからみた生命的システムの進化と意義』

(国際高等研究所、二〇〇八、十) 二五―三六

* 「構造とシステム」『思想』(岩波書店、二〇〇八、十二) 一二五―一四三

* 「曖昧な豊かさの彼方へ」『現代思想』(青土社、二〇〇八、十二) 一五六―一六七

* 「アラカワの方法」『日本病跡学雑誌』No.76、二〇〇八、十二、三八―四五

「自己組織プロセスとしての制作」木村敏・坂部恵編『へかたり〜と〜作り〜』(河合出版、二〇〇九、一) 一八四―二〇四

「認知運動療法という技法」『エコ・フィロソフィー』第三号(東洋大学TIEPH、二〇〇九、三) 九三―一〇八

「創造性はどこから生まれるのか」『白山哲学』第四三号(東洋大学哲学科、二〇〇九、三) 一六一―一九二

「メント・イマジカ——身体記憶へ」(『エコ・フィロソフィー研究』第三号、二〇〇九、三) 一〇九―一一八。[DVD 作品台本]

「Francisco J. Varelaの思想と神経現象学の展開」『箱根精神薬理シンポジウム』(精神薬理研究会、二〇〇九、四) 五―二三頁

「オートポイエーシスと人間再生」『創発システム・シンポジウム』(創発科学会、二〇〇九、八) 五三―六三

* 「複雑系と環境」『哲学の現在』所収(日本哲学会国際交流WG編、二〇〇九、九) 三三―三九

* 「行為の現象学へ」『現代思想』(青土社、二〇〇九、十二) 一七四―一八六

「システム・デザインと環境」『エコ・フィロソフィー入門』(松尾友矩他編、ノンブル社、二〇〇九、十二) 一〇一―一六

「認知運動療法という技法(続)」『エコ・フィロソフィー』第四号(東洋大学TIEPH、二〇一〇、三) 九三―一〇一

- 「発達試論」『白山哲学』第四四号（東洋大学哲学科、二〇一〇、三）一一一一—三三二
- 「システミック・テンション」『エコ・フィロソフィー』第四号別冊（東洋大学TEPH、二〇一〇年、三）五七—六四
- 「デア・イン・デイヴィデュアル」『エコ・フィロソフィー』第四卷（東洋大学、TEPH、二〇一〇年、三）一一三—一二三 [DVD作品台本]
- * 「免疫的行為」『現代思想』（青土社、二〇一〇、七）一五—二六〇
- 「それでも天命は反転する——追悼荒川修作」『現代思想』（青土社、二〇一〇、七）二二—二二五
- * 「創発と現実性」『思想』（岩波書店、二〇一〇、七）七六—九七
- * 「障害の傍らを通り過ぎる」『現代思想』（青土社、二〇一〇、十）一七—四一—八七
- * 「神経現象学リハビリテーションの課題」『神経現象学リハビリテーション研究』創刊号（神経現象学リハビリテーション総合研究センター、二〇一〇、十）一一—九
- 「言語は身体に何を語るか」『白山哲学』（東洋大学哲学科、二〇一一年、三）一二—五—一四五
- * 「生物多様性という課題」『エコ・フィロソフィー』第五卷（東洋大学、TEPH、二〇一一年、三）八三—九二
- 「テスター・エマージェンス」『エコ・フィロソフィー』第五卷（東洋大学、TEPH、二〇一一年、三）一一七—一二七。[DVD作品台本]
- * `Bildung der Sinne Von der Poesis zur Autopoiesis,` in ; Y.Nitta/ T.Tani (Hg.) *Aufnahme und Antwort*, Koeninghauzen & Neumann, 2011,S.159-171.
- * `The conceptions of environment and 'eco-philosophy',` in ; A. Sumi, N. Mimura and T.Masui, *Climate Change and Global Sustainability ; A Holistic Approach*, United Nations UP, 2011,pp.241-257.

「人類の社会実験 ヘルダーリン『エンペドクレーズ』」『現代思想』（青土社、二〇一一、六、一九〇―一九三

* 「痛み システム現象学」『現代思想』（青土社、二〇一一、八）一四八―一五九

* 「現実性と希望の輪郭」『イマーゴ』（青土社、二〇一一、九）一四六―一五一

「精神療法はどこに向かっているのか」『臨床精神病理』（星和書店、二〇一一、九）一五七―一六〇

* L. AUTOPOIESE ET L. INDIVIDU EN TRAIN DE SE FAIRE, Y. Brès, D. Merliè, REVUE PHILOSOPHIQUE, 2011,9, p.347-363.

* 「経験の可能性の拡張とレジリアンス」『日本病跡学会誌』（日本病跡学会、二〇一一、十二）一五―二二

* 「発達論の難題」『発達心理学研究』（日本発達心理学、二〇一一、十二）第二二巻、第四号、三三九―三四八

* 「復興のデザイン」『エコ・フィロソフィー』（TIEPH,二〇一二、三）第六巻別冊、六一―八〇

* Chaos, Autopoiesis and/or Leonardo da Vinci/Arakawa, Eco-Philosophy, Vol.6 (TIEPH) 2012,3,85-89

「詩人という使命」『白山哲学』（東洋大学哲学科、二〇一二、三）一―一―三四

「モア・ヴィベロップメント——認知の彼方へ」『エコ・フィロソフィー』（TIEPH, 二〇一二、三）第六巻 [DVD 作品台本] 一〇九―一二四

「経験の可能性の拡張とレジリアンス」（加藤敏編『レジリアンス 文化 創造』金原出版、二〇一二、年五月）一五五―一六九

「稀なるもの」（人見真理『発達とは何か』解題、青土社、二〇一二、六）三九八―四一五

* 「生命システムの論理」（『現代思想』青土社、二〇一二、七）一三三―一四二

* 「臨床美術の可能性」（『臨床美術ジャーナル』Vol.1 No.1, 二〇一二、十）三三―四〇

* 「アレンジメント1——神経現象学リハビリテーションの難題」(『神経現象学リハビリテーション研究』No.1、二〇一二(十一) 一—一六)

* Chaos, Autopoiesis and/or Leonardo da Vinci/Arakawa, in : J.Keane & T. Glazebrook, *Arakawa and Gins, a special issue of Inflections, Inflections Journal*, No.6, 2013,2, 103-111

「チェジュ記」(『エコ・フィロソフィー』第七卷、TIEPH、二〇一三(三) 九三—一〇二)

「農のシステム」(『エコ・フィロソフィー』第七卷、TIEPH、二〇一三(三) 七三—八二)

「一生「束の間の少年」であること1」(『白山哲学』第四八号、二〇一三(三) 九一—一〇九)

「イノセント・メモリー 情動記憶の彼方へ」(『エコ・フィロソフィー』第七卷、TIEPH、二〇一三(三) [DVD作品台本] 一〇三—一三三)

「『飽き』は個性を伸ばす好機」(『Training Journal』二〇一四(八) 十二—二〇)

「柳田國男の農業文化環境論1」(『エコ・フィロソフィー』第八卷、TIEPH、二〇一四(三) 一—二〇)

「ウエスト・コースティング」(『エコ・フィロソフィー』第八卷、TIEPH、二〇一四(三) 一〇五—一二五)

「エコ・スペクトラム1——『環境金融』解題」(『エコ・フィロソフィー』第八卷、TIEPH、二〇一四(三) 一一七—一二四)

「セルフ・セットアップ」(『エコ・フィロソフィー』第八卷、TIEPH、二〇一四(三) [DVD作品台本] 一七三—一八〇)

「一生「束の間の少年」であること2」(『白山哲学』第四九号、二〇一四(三) 一—三一—三七)

* 「触覚性コスモス」(慶應義塾大学アート・センター Booklet 22、二〇一四(四) 十二—二二)

- * 「システムの精神病理」『臨床精神病理』(Vol.三五、二〇一四、四) 五―一五八
- * 「ラディオアクティヴ奥の細道」(『白山哲学』二〇一五年二月) 四九―六四
- * 「想像界とネット界」(西垣通編『ユーザーがつくる知のかたち』角川書店、二〇一五年三月) 一二五―一五八
- * 「エコ・フィロソフィーとは何か」(『エコ・フィロソフィー第9号』二〇一五年三月) 一一―二三
- 「大地の熱——八丈島」(『エコ・フィロソフィー第9号』二〇一五年三月) 二〇七―二一八
- 「イーストコースト・エクस्प्रेस」(『エコ・フィロソフィー第9号』二〇一五年三月) 一七七―一九二
- 「ファンタスティックロード——熊野」(『エコ・フィロソフィー第9号』二〇一五年三月) 一九三―二〇六
- * 「方法としてのオートポイエーシス」(村上勝三編『越境する哲学』春風社、二〇一五年十二月) 七三―九三
- * 「システムの制作プロセス——D.リンチ」(『病跡学会誌』第九〇号) 一〇―一八
- * 「宇宙の弾力——哲学史からのエッセイ」(『JAXA人文社会科学連携活動報告、二〇一六年三月』一二五―一三二)
- 「フクシマ・レヴィジテッド」(『エコ・フィロソフィー』第十号二〇一六、二) 九九―一〇八
- 「生命の異系——モンゴル」(『エコ・フィロソフィー』第十号、二〇一六、二) 一〇九―一二二
- 「システムの制作プロセス——造形力学Ⅰ」(『白山哲学』第五〇号、二〇一六年三月) 二二―三八
- 「現代史」(永井良三他編『医と知の航海』(西村書店、二〇一六、七) 二〇四―二二三)
- * 「ゲート自然学とオートポイエーシス」(『モルフォロギア』第三八号、二〇一六、十一) 二四―三六
- 「美と真」(『現代思想』二〇一七、二) 一六―二一六五
- 「システムのリハビリテーション」(『エコ・フィロソフィー』別冊Vol.11) 一―一四
- * 「自然という現実性」(『国際哲学研究紀要』別冊Vol.9) 二七―五二

- 「チバニウム」(『エコ・フィロソフィー』Vol.11) 九三―九九
- 「システムの介入の最近接領域」(『エコ・フィロソフィー』Vol.11) 八三―九二
- 「空の岩 大地の岩 水の岩」(『白山哲学』第五一号、二〇一七、二) 六五―八三
- * 「文明創発の舞踏——笠井叡氏の講演に寄せて」『病跡学研究』(二〇一七年十二月) 一七―二二
- 「リヴァースド・ツイン」『現代思想』(二〇一八年二月) 八〇―八三
- 「海と山の狭間——石巻の再生・展開」『エコ・フィロソフィー Vol.12』(二〇一八年三月) 六五―七二
- 「環境——アートフェスティヴァル」『エコ・フィロソフィー Vol.12』(二〇一八年三月) 七三―八三
- * 「超学習する機械 ソーム ネットワーク」『国際哲学研究紀要別冊 情報 身体 ネットワーク』(二〇一八年三月) 五五―七九
- * 「ウィーナーの夢」『国際哲学研究紀要別冊 情報 身体 ネットワーク』(二〇一八年三月) 四一―五四
- * 「デイメンシヨナル・リセット」『神経現象学リハビリテーション研究 Vol.4』(二〇一八年三月) 一―七
- 「システムの制作——文明創発の舞踏・笠井叡」『白山哲学』(二〇一八年三月) 二三―三九
- * 「世界という現実性」(『新実在論の可能性』国際哲学研究別冊一―号、二〇一九年三月) 九三―一―一五
- 「鉄の途」(『エコ・フィロソフィー』Vol.13、二〇一九年三月) 二五―三八
- 「青のエコ・フィロソフィー」(『エコ・フィロソフィー』Vol.13、二〇一九年三月) 一三―三三
- * 「仮想現実とは、どのような現実か」(『情報科学技術社会』国際哲学研究別冊十二号、二〇一九年三月) 四九―六四
- * 「自然知能とソフト・ロボット——科学哲学的考察」(『情報科学技術社会』国際哲学研究別冊、二〇一九年三月) 六五―七六

- * 「システムのパースペクティヴ」(『神経現象学リハビリテーション研究』Vol.4、二〇一九年三月) 三九―四七
- 「浮遊する島」(『白山哲学』Vol.53、二〇一九年三月) 二七―四六
- 「活動の哲学…ドイツ観念論とオートポイエーシス」(『立命館哲学』二〇二〇年三月) 一―一〇。
- 「渡良瀬——歴史のエコ・フィロソフィーに向けて」(『エコ・フィロソフィー』一四号、二〇二〇年三月) 四七―五八
- 「民族の畧——論争の地経学的生態学」(『エコ・フィロソフィー』一四号、二〇二〇年三月) 五九―七九
- 「自然知能——職人の哲学…ダ・ヴィンチ」(『エコ・フィロソフィー』一四号、二〇二〇年三月) 一―四五
- * 「Toward the Conception of World philosophy in 22th Century」(『国際哲学研究』九号、二〇二〇(三) 四一―五〇
- * 「情報という現実性」(『国際哲学研究別冊』一三号、二〇二〇年三月) 二一―四八
- * 「トータル・リセット」(『神経現象学リハビリテーション研究』五号、二〇二〇年三月) 五三―六〇
- 「負量という現実性」(『白山哲学』二〇二〇年三月) 二三―四八
- * 「可能性の生物学史」『生物学史研究 No.100』(日本科学史学会生物学史分科会、二〇二〇年六月) 六九―七二
- * 「芸術はどのような運動か」『最新精神医学』(第二五巻、第五号、二〇二〇年五月) 三九三―三九八
- * 「Toward the 22nd-Century World Philosophy : Philosophy as a Research Program II、(『国際哲学研究』十号、二〇二二年三月) 九―二二
- * 「東洋的フラクタル——三浦梅園の構想」(『国際哲学研究別冊』一四、二〇二二年三月) 七―二四
- 「システムの実験か——チャイナ・コードの地経学的生態学」(『エコ・フィロソフィー』一五号、二〇二二年三月) 一―三四九

「水の夢」(『エコ・フィロソフィー』一五号、二〇二二年三月) 五二―六七

「公共性の生態学的モード―新型コロナウィルス第1波(2020年1月―5月)」(『エコ・フィロソフィー』一五号、二〇二二年三月) 一二七―四二

「トワイライト・アイランド―佐渡周遊」(『白山哲学』五五巻、二〇二二年三月) 一七―三三

* 『Hope in Philosophy―Toward a World Philosophy for the 22nd Century : Philosophy as a Program 3』(『国際哲学研究』第一巻、国際哲学研究センター、二〇二二年二月) 一六三―一七三

「情報生態学」(『エコ・フィロソフィー』第一六巻、国際哲学研究センター、二〇二二年二月) 一―五

「科学的対応可能性の地政学」(『エコ・フィロソフィー』第一六巻、国際哲学研究センター、二〇二二年二月) 五二―六五

「市場とメディアの出現―狩猟採集民・農耕牧畜民・遊牧民」(『エコ・フィロソフィー』第一六巻、国際哲学研究センター、二〇二二年二月) 六七―七九

6. 「果敢な挑戦とリスク」(『神経現象学リハビリテーション研究』Vol.6、国際哲学研究センター、二〇二二年二月) 三七―四四

「霊の迷い場」(『白山哲学』第五六巻、二〇二二年三月) 二二―四二

「システムミックSDGs―デカップリングを中心に」、東洋大学PPP研究センター編著『公民連携白書2022-2023SDGsの限界と展望』(時事通信社、二〇二三年、二月) 二二―一八

「情報システムの位相学的地政学」(『システム文化生態学』〇号、二〇二三年二月) 三二―二五

「ゾンビ神経症の生態学―学習の可能性をめぐる」(『システム文化生態学』〇号、二〇二三年二月) 二七―

- 「デカップリング1——システムの変貌」(『システム文化生態学』〇号、二〇二三年二月) 四三―六三
- 「デカップリング3——原型の解釈学」(『システム文化生態学』〇号、二〇二三年二月) 六五―八四
- 「システムの分岐1 マルチ・メディアウム・プレーヤー——媒体としての存在——貝原益軒」(『システム文化生態学』〇号、二〇二三年二月) 八五―一〇二
- 「システムの分岐3 創発的マシーン——平賀源内のイメージ的多動」(『システム文化生態学』〇号、二〇二三年二月) 一〇三―一二四
- 「カテゴリーとしてのデカップリング」(『白山哲学』三七卷、二〇二三年三月) 二二―四三
- 「哲学入門 アート+プロセス」(古川聖他編 『アートをひらく』福村出版、二〇二四年一月)
- 「息づくもの、佇むもの、暮らすもの——工藝の民俗学」(『白山哲学』三八卷、二〇二四年三月)

概論・書評・対談・事典項目

- 『The Theory of Life in the Early 20th Century』, (Historia Scientiarum, 1983, 12) [学会欧文誌書評]
- 「事故(＝偶然)を捉えなおす」(『週刊読書人』一九八九、十二) [科学技術論回顧]
- 「生活感覚の基層の変化を解明」(『週刊読書人』一九九〇、四) [書評]
- 「すでに透明で停滞感のある環境問題」(『週刊読書人』一九九〇、十二) [科学技術論回顧]
- 「形態共振の汎リズム論的世界像」(『週刊読書人』一九九一、三) [書評]
- 「意表をつく局面を開く」(『週刊読書人』一九九一、十) [書評]

- 「量子的世界の視覚化」(『モロフォロギア』一九九一、十) [書評]
- 「平成の高度成長の終焉」(『週刊読書人』一九九一、十二) [科学技術論回顧]
- 「環境科学の成熟」(『週刊読書人』一九九二、十二) [科学技術論回顧]
- 「科学としての系譜」(『文化会議』一九九三、一) [書評]
- 「緊迫した論争のゲーム」(『週刊読書人』一九九三、四) [書評]
- 「自然哲学の可能性」(『科学史研究』一九九三、七) [書評]
- 「自己と環境の起源」(『出版ニュース』一九九三、八)
- 「自己組織化の観点から個と普遍の統合の試み」(『週刊読書人』一九九三、十) [書評]
- 「自己の在り方を再考」(『インターコミュニケーション』一九九四、七) [対談]
- 「作動するシステム」(『イマージュ』一九九四、九) [対談]
- 「精神医学をシステム論的に再編」(『図書新聞』一九九四、九) [書評]
- 「文明のなかの生命論」(『週刊読書人』一九九四、十二) [科学技術論回顧]
- 「哲学者の自画像」(『アエラ・ムック』一九九五、一)
- 「オートポイエーシス」(『データ・パル』一九九五、二)
- 「色彩のラビリンズ」(『武蔵野美術』二〇〇〇、一)
- 「ゲーテ色彩論完訳版」(『週刊読書人』二〇〇〇、三) [書評]
- 「変化の記述法」(『談』二〇〇〇、四)
- 「動きのかたち／かたちの動き」(『武蔵野美術』二〇〇〇、四)

- 「強度に満ちた曖昧」(『武蔵野美術』二〇〇〇、四)
- 「舞踏・身体・アフォーダンス」(『武蔵野美術』二〇〇〇、四) [対談]
- 「環境・行為・デザイン」(『武蔵野美術』二〇〇〇、四) [対談]
- 「色の縁、光の縁」(『新曜社目録』二〇〇〇、六)
- 「自己の境界、現実の境界」(『MAU2001』二〇〇〇、六)
- 「外的目的と内的目的の接続」(『カント全集月報6』)
- 「5の幾何学、5の物理学」(『武蔵野美術』二〇〇〇、七)
- 「光の素顔」(『武蔵野美術』二〇〇〇、十)
- 「構造改革は必要なか」(『Voice』二〇〇〇、十一)
- 「オートポイエーシス」(『現代思想フォーカス』二〇〇〇、十二)
- 「作動的閉鎖性」(『武蔵野美術』二〇〇一、一)
- 「システム―生命論の未来」(『現代思想』二〇〇一、二) [対談]
- 「環境の拡張」(『現代思想』二〇〇一、二) [対談]
- 「遺伝子VSミーム」(『週刊読書人』二〇〇一、十) [書評]
- 「心と身体ポイエーシス」(『現代思想』二〇〇一、十) [対談]
- 「哲学と反復」(『現代思想』二〇〇一、十二) [対談]
- 「制作と身体」(『SAP』二〇〇二、一) [対談]
- 「オートポイエーシス」(『アエラ・ムック』二〇〇二、一)

「オートノミー」「オートポイエーシス」「攪乱」「共感的領域」「言語的領域」「構造的カップリング」「自己言及」「自己産出関係」「自己組織系」「相互浸透」「マトウラーナ」「ヴァレラ」(『情報科学事典』弘文堂、二〇〇二、一)「事典項目」

「オートポイエーシス」(『臨床精神医学』二〇〇二、三)「事項解説」

「自己治癒と経験の変貌」(『現代思想』二〇〇二、三)「対談」

「オートポイエーシス」(『記号学大辞典』二〇〇二、五)「事典項目」

「生成する多様体」(『Diatext』二〇〇二、八)

「創造性の回路」(『京都新聞』二〇〇二、八)

「日常からの不連続性」(『建築雑誌』二〇〇二、十)

「口腔感覚の可能性」(『談』二〇〇二、十一)

「生成する多様体」(『プログラムシード』二〇〇三、三)

「情動の形成」(『情動と乗り物』二〇〇三、三)

「揺らぎとノイズ」(『デザインの理念と形成』二〇〇三、四)

「動きと快感」(『イマジナリーナンバーズ』解題二〇〇三、六)

「河本英夫『精神医学』、『オートポイエーシス2001』プリコジン『混沌からの秩序』(『精神医学文献事典』

二〇〇三、六)「事典項目」

「口腔の運動感覚」(『ユリイカ』二〇〇三、十)

「現象学は色彩の多様性にどのようにアプローチするか」(『D:Sign』二〇〇三、十)「書評」

- 「力概念の形成と重力の発見」〔科学〕二〇〇三、十〕〔書評〕
- 「知の根底にある生命へ」〔週刊読書人〕二〇〇四、四〕〔書評〕
- 「生態行為と環境」〔D-Sign〕一〇〇四、四〕
- 「イメージと身体の制御」〔春秋〕二〇〇四、七〕一―四
- 「ショーペンハウアー」〔現代思想〕二〇〇四、九〕八〇―八三
- 「解題 パトスと応答の間の現象学」〔思想〕二〇〇四、十二〕八六―八七
- 「読書目録上・中・下」〔週刊読書人〕二〇〇四、十二〕
- 「光の強度」〔武蔵野通信〕二〇〇五、一〕
- 「建築の希望」〔春秋〕二〇〇五、一〕
- 「ダンスの希望」〔Bones In Pages〕一〇〇五、九〕
- 「身体の未来につらて」〔情況〕二〇〇六、一、三〕〔対談〕
- 「知識人へのコメント」〔SITE ZERO ZERO SITE〕二〇〇六、三〕
- 「未決の大問題に挑む構想」〔週刊読書人〕二〇〇五、十〕〔書評〕
- 「人間再生のために」〔現代思想〕二〇〇六、十一〕〔対談〕
- 「情動の回路」〔談〕二〇〇六、十一〕〔対談〕
- 「意識は多元的か」〔週刊読書人〕二〇〇六、十二〕〔書評〕
- 「エコ・フィロソフィーが目指すもの」〔サステナ〕二〇〇七、十〕
- 「リハビリから見えてくる触覚の多様性」〔ネイチャーインターフェイス〕二〇〇七、十二〕

- 「感覚と身体がせめぎ合う身体のオートポイエーシス」(『科学技術と自律社会』二〇〇八、四)
- 「経験を変化させる道筋を拓く」(『週刊読書人』二〇〇八、四) [書評]
- 「天命反転は二度到来する」(『三鷹天命反転住宅』二〇〇八、四)
- 「認知科学と現象学に多くの謎と課題を提供」(『図書新聞』二〇〇八、九) [書評]
- 「ポスト構造主義的なスキゾ分析に区切りをつける」(『週刊読書人』二〇〇八、十二) [書評]
- 「つながるための条件」(『看護学雑誌』二〇〇九、二)
- 「複雑系統与環境」(『第二屆中日哲学論伝』二〇〇九、四) 二〇〇九、二二
- 「関わりのなかで続く」(『続く』二〇〇九、六) 八、三五 [対談]
- 「前人未到の取り組み」(『看護学雑誌』二〇〇九、七) [書評]
- 「3 天讀僅 哲学」(『理解人生的把持思考要領』二〇〇九、十)
- 「近さと経験」(『談』二〇〇九、十二) [対談]
- 「私はどのように動いているのか」(『談』二〇〇九、十二) [対談]
- 「より明確に公共化されていく岡田慎一郎さんの身体技法」(『看護学雑誌』二〇〇九、十二) [書評]
- 「複雑系科学の先駆者としての寺田寅彦」(『寺田寅彦全集』月報六、二〇一〇、二)
- 「フロイトに隣接するもの」(『フロイト全集』月報三、二〇一〇、二)
- 「ネオサイバネティクスの21世紀の知」(『思想』二〇一〇、七) [対談]
- 「規格外の死」(『春秋』二〇一〇、七) [追悼文]
- 「それでも天命は反転する」(『現代思想』二〇一〇、七) [荒川追悼文]

- 「荒川修作の死なご」〔NEUTRAL〕二〇一〇、八)
- 「隙間を作ることが大切です」〔サンデー毎日〕二〇一〇、十一)
- 「褒めることと嘘の間」〔山形頼洋先生追悼論集〕二〇一一、一) 「山形頼洋追悼文」
- 「オートポイエーシス」〔カオス理論〕「構造主義」「現象学」〔現代精神医学事典〕二〇一一、十) 「事典項目」
- 「エコ・フィロソフィーの課題——東日本大震災に直面して」〔サステナ〕二〇一一、十) 「対談」
- 「ウサギとカメラから学ぶ」〔産経新聞〕二〇一一、十一) 「インタヴュー」
- 「システム」〔日本のかたちをよむ事典〕二〇一一、十二) 「事典項目」
- 「世界与知覚」〔哲学三、天明白〕二〇一二、四) 一〇七—一二八 「中国語論文」
- 「第三世代システム—オートポイエーシス」〔日本感性福祉学会報告〕二〇一二、七) 「講演記録」
- 「人間再生の可能性」〔日本感性福祉学会報告〕第十号、日本感性福祉学会、二〇一二年七月) 三四—七〇頁。
- 「生命と全体の輪郭」〔『広告・恋する芸術と科学』三九〇巻、二〇一二、十二) 「インタヴュー」
- 「思い出の一手前」〔『神経現象学リハビリテーション研究』二〇一二、十一) 「人見眞理追悼文」
- 「天命反転のシステム」〔エコ・フィロソフィー研究 第七卷別冊〕二〇一三、三) 五五—六三
- 「発達とはどのような問いか」〔エコ・フィロソフィー研究 第七卷別冊〕二〇一三、三) 八五—九二
- 「カップリング」『アルファMプロジェクト』武蔵野美大、二〇一三、三) 「対談要旨」
- 「天命はなお反転する 人間再生のための環境」〔TEPH, ニュース。レター、二〇一三、七) 三
- 「働きという自己表現」〔向井周太郎 世界プロセスとしての身振り』武蔵野美大、二〇一三、九) 一三一—一五
- 「行為システムと認知神経リハビリテーションの可能性」〔認知神経リハビリテーション・アドヴァンストコース冊

子、二〇一三、十一)

「カリフォルニア視察」(TEPH、ニュース・レター、二〇一三、十二)二

「リハビリテーションと自己組織化」(『エコ・フィロソフィー』第八卷別冊。二〇一四、三)

一一四―一六

「方法としてのオートポイエーシス」(『エコ・フィロソフィー』第八卷別冊、二一四、三)一七八―一八九

「いのちの尊さを考える」TEPHニュースレター、二〇一四年四月、一二頁

「イースト・コースティング」TEPHニュースレター、二〇一四年十一月、一二頁

「私はどのように動いているのか」(宮本省三氏と対談)『談 100号記念選集』(水曜社、二〇一四年十一月、四六八―四六〇頁)

稀本・奇書書評、フリーエ『四運動の理論』、ユング『赤の書』、シュタイナー『人智学』、折口信夫『死者の書』、荒川修作・マドリリングズ『意味のメカニズム』『へんな本大全』(風来堂、二〇一五年二月)八八―九三

「天命反転トーク」(田中浪氏と対談)(『エコ・フィロソフィー』第九号別冊)二〇一五年三月 一二―一四九

「遂行的記憶」(『エコ・フィロソフィー』第九号別冊)二〇一五年三月 一〇三―一〇四

「ドイツ文化とエコロジー」(TEPH ニュースレターNo21、二〇一五年五月)

「即興ダンス・ワークショップ」(TEPH ニュースレターNo21、二〇一五年五月)

「天命反転トーク」(TEPH ニュースレターNo21、二〇一五年五月)

「オートポイエーシスと生物学」(「中村桂子氏との対談」『ゲノムを見る夢』二〇一五年六月青土社)一四〇―

一九四

- 「エコ・ファンタジー」刊行 (TEPHニュースレター No.22, 二〇一五年十月)
- 「ワークシヨップ『身体と環境』」(TEPHニュースレター No.22, 二〇一五年十月)
- 「TEPH定例研究会」(TEPHニュースレター No.22, 二〇一五年十月)
- 「ドイツ農業とエコロジー」(『エコ・フィロソフィー』第十卷別冊、二〇一六年、二月) 一九一―二四
- 「課題としての里山」(『エコ・フィロソフィー』第十卷別冊、二〇一六年、二月) 六一―七二
- 「After our Fukushima」(『エコ・フィロソフィー』第十卷別冊、二〇一六年、二月) 一九九―二二二
- 「システムの抑制——人間再生の壁」(『エコ・フィロソフィー』第十卷別冊、二〇一六年、二月) 一六七―一七二
- 「即興ダンスワークシヨップ『身体の内発性』」(『エコ・フィロソフィー』第十卷別冊、二〇一六年、二月) 〔岩下徹氏との対談〕 一八五―二〇一
- 「身体と環境」(『エコ・フィロソフィー』第十卷、二〇一六年、二月) 〔和栗由紀夫氏、シュテンガー教授との鼎談〕 二〇五―二三三
- 「環境・人間の組織化」(鼎談) 『エコ・フィロソフィー』Vol.11別冊、二〇一七年、二月、一〇七―一二〇
- 「未了・未決の人——長島隆先生に贈る言葉」(『白山哲学』二〇一七年二月) 一―四
- 「エコ・フィロソフィー13の向こうへ」『エコ・フィロソフィー』Vol.12, 二〇一八年三月、一一五―一二七 〔山田利明氏との対談〕
- 「“ 舞踏? ” ワークシヨップ『舞踏とは何か』」『エコ・フィロソフィー別冊』Vol.12, 二〇一八年三月、八一―九三 〔向雲太郎氏との対談〕
- 「情報科学技術社会 はじめに」『情報 身体 ネットワーク』Vol.8別冊二〇一八年三月三十五、

- 「哲学のエクササイズ」『本』（講談社、二〇一八年四月）四六―四七
- 「情報科学技術社会 はじめにⅡ」『情報 知能 自然』Vol.9別冊 二〇一九年三月、三四、
- 「身体の自然性——向雲太郎氏との対談」(『エコ・フィロソフィー』一四号、二〇二〇年三月) 一三三―一四一
- 「フェミニズム神経症」(KAWAMOTO/HP' 二〇二〇'三)
- 「情報暴走族」(KAWAMOTO/HP' 二〇二〇'三)
- 「不思議な挫折」(KAWAMOTO/HP' 二〇二〇'三)
- 「環境への強度性の回復」(『エコフィロソフィー』一五号、二〇二二年三月) 一―四
- 「レオナルド・ダ・ヴィンチの手記」『わたしが選んだこの一冊』(河合塾、二〇二〇年六月) 一三三
- 「ローカル・ゾンビ」(KAWAMOTO/HP) (二〇二一年一月)
- 「舞踏生態学」(鼎談、海野敏、鈴木信一) (『エコ・フィロソフィー』第一六卷、国際哲学研究センター、二〇二二年二月) 一四一―一八五
- 「鈴木信一著『即興ダンスセラピーの哲学——身体運動・他者・カップリング』の書評」(『境界を超えて——比較文明学の現在』(立教比較文明学会紀要)、第二二号、二〇二二年二月、一八一―一八七)
- 「住むことの経験を再編するために」(鼎談、河本英夫、十川幸司、村山悟郎)、大崎晴地編『障害の家と自由な身体』(晶文社、二〇二三年) 七三―九三

